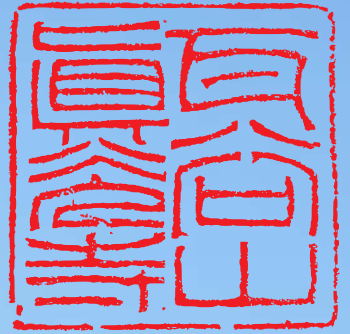


瓦谷山



瓦谷山だより



発行日 2022年12月10日
発行人 (宗) 真光寺
岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
○お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://shinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

vol.51

皆様にとって二〇二二年はどんな年だったでしょうか。歴史的には、ロシアによるウクライナ侵略戦争がもたらした衝撃に世界が翻弄された一年と言ってよいかと思えます。その影響はあらゆる分野に及び、身近なところでは電気、ガス、石油などのエネルギーそして食料品の値上げによる生活の逼迫が大きな問題となっています。

第二次大戦終了後に生まれ、ソビエト連邦の崩壊を目の当たりにして、私は冷戦が終結したことで今後は国と国が争い、国民を動員するような大きな戦争はもう起こらないだろうと安堵したのですが、それはまったくの幻想でした。思えばアフリカや中東などでは絶えず紛争が繰り返され、世界の難民はいまだに過去最大を更新し続けているのですから、平和な時代など現実には存在していません。火を見るよりも明らかです。

私が専務理事を務める公益社団法人シヤンティ国際ボランティア会では、ウクライナの隣国ポーランドとモルドバに人員を派遣し、ウクライナ避難民の方々の緊急人道支援を開始しました。シヤンティは一九七九年、大量に発生したインドシナ難民を救済するため曹洞宗に設置された曹洞宗国際ボランティア会を起源として、八一年、曹洞宗僧侶を中心に結成された曹洞宗国際ボランティア会を起源としています。爾来アジア圏で教育文化支援を行って来ました。しかしカンボジア・タイ国境の難民キャンプでの活動から始まった団体です。緊急人道支援として、ミャンマー・タイ国境の難民キャンプでの活動、アフガニスタンでの活動、そして阪神淡路大震災、東日本大震災の支援活動、世界の風水害、大地震の支援活動なども行ってまいりました。その経験をウクライナでも生かしていきたいと思っています。

ウクライナ避難民は五百万人とも一千万人ともいわれ、難民キャンプのような形ではなく、日本の北海道と本州を合わせた面積に相当するポーランド国内に分散して居住し、移動も自由に行えます。一方のモルドバは二百六十万人の国民の内七十万人が貧困状態ということで、欧州最貧国ともいわれませんが、両国とも国民が家庭や地域で避難民を受け入れ、支援して共に生活しています。皆さん明るく普通に生活しているように見えても、子どもたちは一面を真っ黒に塗りつぶした絵や、人が血を噴いて真っ赤になっている絵などを描くといえますから、心には大きな傷を受けているように思いますし、長引く戦争に伴って支援者の方々の疲弊も大きな問題となっています。

シヤンティがどんなに頑張っても、できるのは広大な国土のほんの片隅に小さな支援を届けることです。国や国連のような大きな機関が支援すればよいではないかと思われるかもしれませんが、しかしどんな支援でもまずは調査をして、支援者を特定し、ニーズ調査をして支援内容を決め、支援をした後はその効果を調査し、経過観察をした上で報告書を作成して資金提供者に報告します。これは支援の大小を問いません。国連や政府が行う支援でも同じような過程が必要なので、大きな支援であればあるほどなかなか行き届かないのです。私共のようなNGOが各地で、住民の側に立った支援を行い、住民の声を聴きながら報告を上げていくことで、大きな支援もより効率的に届けることができます。またたとえ小規模であっても日本の市民からの支援は、現地の人を励ますことに繋がっていきます。人と人の繋がりを感ずることは、生きていく上でとても重要です。

シヤンティは助成金や皆様からの寄付金を使用し、緊急食糧パッケージ、衛生用品パッケージ、女性の尊厳を守るキットなどの配布、子どもの教育支援、職業訓練支援などを予定しています。

現在、私たちは現地職員を雇用し事務所を構えるアフガニスタン、ミャンマーでの政変による職員の生命の危機、さらには極度の不安などに悩まされ、団体としての存亡の危機に直面しています。職員の安全を第一に、困窮する人々に粘り強く寄り添い、見捨てない。そんな思いでいるのですが、ただの無力な僧侶にすぎない私が、このまままったく畑違いの国際支援を行うNGOで百七十余名の職員を束ねる事務局の舵取りをしていて果たしてよいのだろうか、日々自問を繰り返しています。

お釈迦様の祈りの言葉がスッタニパータという經典にあります。

「生きとし生けるすべてのものが安楽で平穏で幸福でありますように、いかなる生命、生物でも、動物であれ、植物であれ、(中略)一切の生きとし生けるものが幸福でありますように。」

寺院の存在意義、また僧侶の役割は、お釈迦様のこのお言葉にこめられた願いを少しでも実現していくことだと思います。微々たる力であっても、少しでも人々が幸せになるように努力を続けたい。皆様にはご迷惑をおかけしますが、いましばらくは東京通いを続けることになりそうです。

二〇二三年がよい年になるよう、年始には願いをこめてご祈りを勤めます。大勢の皆様のお参詣をお待ちしています。

行事報告

◇お盆施食法要

今年も近隣のご住職を拜請し、孟蘭盆施食法要が修行されました。

昨年にならば法要参加者も増えましたので、八月の縁の会施食法要では堂内の空間確保のため、住職によるDIYで急遽前日に精霊棚を薬師堂前の階段上に出し、特設しました。ところが法要開始直前に突然の雨。慌てて軒先よりブルーシートで精霊棚に屋根を架け、間一髪、お位牌やお供え膳は受難を免れました。



階段に設置した精霊棚



精霊棚設置後の薬師堂正面



施食会読経の様子

◇梅花流千葉県奉詠大会

十月十九日梅花流千葉県奉詠大会が、千葉市青葉の森芸術文化ホールにて開催されました。梅花流奉詠大会は、県内寺院の梅花講員一同が参集し日頃の練習を発表する曹洞宗千葉県宗務所主催の行事です。

真光寺梅花講からは



第21回梅花流千葉県奉詠大会 千葉市青葉の森芸術文化ホールにて



壇上に向かう真光寺梅花講のみなさん

七名で参加。千葉市正因寺梅花講と合同で登壇し、『正法御和讃』という曲を奉詠しました。

大会に向けての練習期間はひと月半程度でしたが、一回一回効率よく練習。音程がとりにくい箇所や間違えやすい所作を重点的に練習し、満を持して大会に臨みました。

当日は、久しぶりに登壇しての奉詠に、皆さん少し緊張した面持ちでしたが、練習の成果を充分に発揮し、奉詠後は笑顔で喜びを分かち合いました。

※真光寺梅花講では、今回の梅花流千葉県奉詠大会や真光寺の花まつり、お盆施食法要での奉詠に向けて、楽しく練習をしています。一緒に詠歌に親しんでいただける方を随時募集しておりますので、ご興味のある方は真光寺にお問い合わせください。

令和五年 年回表

百	五	三	三	二	二	十	七	三	一
回	十	十	十	十	十	三	回	回	周
忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌
大	昭	昭	平	平	平	平	平	令	令
正	和	和	成	成	成	成	成	和	和
十	四	六	三	九	十	二	三	三	四
三	十	十	年	年	三	十	年	年	年
年	九	二	年	年	三	三	年	年	年

縁の会総会報告

令和四年十一月三日、第十一回縁の会総会を開催いたしましたのでご報告いたします。

総会当日の様子

今年も素晴らしい秋晴れの中、百名を超える皆様にご参加いただきました。

総会は十一時からの開催ですが、一時間以上早く来山される方もいらっしゃいます。その理由は、先にお墓参りをしたい、ということもありますが、加えて近隣の檀家さんが丹精込めて作られた数量限定の落花生や里芋、ニンジン、ゴボウなどの季節のお野菜をゲットしたいから？ 販売コーナーの寺務所前の回廊は大賑わいでした。

午前の部

午前は書院に於いてご本尊様へご挨拶の法要と月例供養及び、のぼり旗奉納。その後、住職から現在行われている事業や今後の展望、会計収支について説明。第四期墓地の整備が完了したこと、薬師堂と書院を繋ぐ回廊や、もう一つ位牌堂の建設を検討していること、寺院運営が健全であること等をご報告いたしました。質疑応答では、寺院運営の不明な点についていくつか



今回は法要を書院前で行いました。



お昼は外でお弁当。まるでピクニック。

ご質問がありました。住職の回答に、皆さま安心、納得された様子でした。その後、事務局から樹木葬墓苑のお参り、ご利用について諸注意を申し上げ、昼食となりました。

午後の部

午後は事前にお申し込みの①葬儀信託制度の説明会、②川原井里見城跡見学ツアー、③チャリティ寄席の三つのプログラムにそれぞれご参加いただきました。

①葬儀信託制度の説明会



シルバーライフ協会による説明会の様子。

葬儀信託制度は法律事務所、ベストファームグループの社団法人東京シルバーライフ協会と提携し、平成三十年より運用していただいています。この制度を希望される方はそれぞれご事情も様々です。その人のご要望に応じて必要なサービスを選び組み合わせるこ

とができるオーダーメイド型の死後事務委任契約では、より利用しやすい内容となったので、東京シルバーライフ協会の方に説明していただきました。

②川原井里見城跡見学ツアー

たくさん城跡がある千葉県は歴史の宝庫。真光寺と向かい合う浅間山にも川原井里見城という里見氏のものや伝わる城跡があります。今年の七月には袖ヶ浦市観光協会から御城印も発売され、注目を集めつつある川原井里見城跡。探索ツアーの記念すべき第一回として、本紙にも連載をお願いしている袖ヶ浦市郷土博物館顧問 井口崇先生を講師にお招きし、古城の痕跡をたどりながら大月川沿いの旧道を散策しました。調査に基づくわかりやすい解説に、かつての川原井の地の

ありようが彷彿とされる一方で、真光寺にまつわる住職の大胆な仮説が飛び出したり、知的な刺激に満ちたブラタモリ気分のひとつときでした。

③チャリティ寄席

落語芸術協会に所属されている俗曲師、檜山うめ吉

さんに至芸を披露していただきました。「奴さん」の曲に合わせてしなやかに踊りながら登場。座って自己紹介から始まり、「並木駒形」「箱入り旦那」等のかつての宴席に興を添えた俗曲を三味線の音色に乗せ披露されました。毎朝自ら結ばれるというあでやかな日本髪姿と相俟って、前半は江戸時代にタイムスリップしたかのようでしたが、後半はがらりと雰囲気が変わってお馴染みの曲のオンパレード。美空ひばりさんの「お祭りマンボ」や「アウト、セーフ、ヨイノヨイ！」の「野球拳」に合わせたじゃんけん大会等に会場は大盛り上がりでした。

「国際協力チャリティ寄席」は、落語芸術協会にご協力をいただき、シャンティ国際ボランティア会が企画する地域寄席です。この日皆様から寄せられた募金一



江戸から昭和まで幅広いレパートリーをお持ちです。

万七千九百円は、アジアの子どもたちへの教育支援に有効活用させていただきます。ご協力ありがとうございます。

また来年皆様にお会いできる事を楽しみにお待ちしております。



真新しい案内板の前でのレクチャー

「森の苑」第四期新エリアの

募集がはじまりました。

以前よりお知らせをしております第四期の新エリアが完成し、既に募集を開始しています。

第四期は先行整備分と合わせると約五二〇区画。高低差が少ない地形が特徴です。

皆さまの多くが利用されている森の苑の一期〜三期までは、開苑以前より植わっていた樹木も若干ありましたが、第四期はもともと畑だったので、樹木は全て新たに植えました。

実は墓地の第一期から第三期まで、異なるコンセプトで植木が植えられています。第一期は伽藍から良く見えるので山の花と実。第二期は周辺の山に近いので、山の木と花。第三期は昔からある大木と桜を骨組みに植樹してあります。

そして第四期は、伽藍が近く、高低差もないので、散策も楽しめるように鑑賞できる花木を選びました。

将来は林間が透けるような印象になるように常緑樹は少なめに、あっても軽やかな樹種が選定されています。

真光寺の境内地で墓地として利用できる箇所は限られていて、エリア単位での募集は今回が最後になる見込みです。将来は墓地の余白となっている場所を利用して数を限定して募集を行う計画です。

ご家族、ご友人が樹木葬墓地をご検討の場合はなるべく早めにお問い合わせください。

新エリアの木々をご紹介します

ニワウメに似た低木です。春に梅に似た花を付けます。実も赤くてかわいく、食用にもできます。

▼ ユスラウメ



アマノガワ ▲
サトザクラ。枝が直上するのが特徴で、ホウキ桜とも。

フゲンゾウ ▶
オオシマサクラ系のサトザクラ。八重桜と言えればこれというくらい最もポピュラーな八重桜です。



◀ ジンダイアケボノ
ソメイヨシノによく似た桜です。ソメイヨシノがアメリカに渡った際に出来た桜で、ソメイヨシノよりちょっとピンク、病気に強いのが特徴です。

お墓参り・境内ご利用の注意点

樹木葬墓苑お参りのご案内

● 火気の使用は所定の場所を除き線香を含めご遠慮ください。(焼香場所 屋外/桜の苑 屋内/観音堂)

● 供物を含む品物や人工物の放置はご遠慮ください。

● 供え花を植えることのできる範囲は碑の周囲のみです。(ポット苗10個程度。種類は一年草)

● 墓地の除草は土が流れ出ます。軽めにしてください。

● 発生したゴミは原則持ち帰りをお願いしています。やむをえない場合には寺務所にお持ちください。

● 樹木葬墓苑の管理

● 定期的な下草の刈取りを行っています。天候により管理工程以上の早さで繁茂する場合もありますのでご理解のほどお願いいたします。

● 規定に反した花植え、植樹等については、適宜除草、伐採いたします。

● 害獣対策

● スズメバチ・蛇が墓苑内に出現しますので、十分に気をつけてください。見かけた場合には静かにその場を離れてください。

● 送迎

● 前日の午後4時までにご予約をお願いします。車両の維持費に充当いたしますのでお布施をお願いします。

● 花植え代行

● ご希望の1か月前までにお申し込みください。

● ペットとの墓参

● 墓苑内はペットとお散歩できません。室内には入れません。ご事情がある場合には、キャリーバッグ、カートなどをご利用ください。

※ 以上のお知らせ事項は、お墓参りにいらっしゃるご家族、ご親族、ご友人にもお伝えください。よろしく、お願い申し上げます。

【連載】未来に伝えたいふるさとの歴史Ⅴ

袖ヶ浦市郷土博物館顧問 井口 崇

西上総の鎌倉街道 — 頼朝北上の道 —

今年のNHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」前半は、治承4（1180）年の源頼朝の挙兵から石橋山での敗戦、そして安房への脱出、その後の勢力の増強と進撃、千葉常胤や上総広常が率いる巨大勢力を得ての鎌倉入り、上総広常謀殺を代表とする権力獲得のために行われた粛清の数々、などがあり実に見応えがありました。関東一ともいわれた在地領主上総広常役を演じた佐藤浩市さんは、カッコよかったです。殺害された後には、「広常ロス」なる言葉も聞かれたくらいでしたから、このドラマの影響の大きさがわかりました。

私の勤務先である袖ヶ浦市郷土博物館にも、春先ころから鎌倉街道に関する問い合わせや案内を希望するというリクエストが多く寄せられました。私自身も、大河ドラマで千葉常胤役の岡本信人さんと、つかの間ではありましたが対談させていただき、いくつもの現地ガイドなどを務めることになり、改めて鎌倉街道について考える機会となりました。

今回は、頼朝と彼に与した東国の武士たちが源氏再興を賭けて北上したのであろう、鎌倉街道を紹介し、古代から中世にかけての西上総の歴史的な特徴を探ってみたいと思います。

■源平合戦「治承・寿永の内乱」

源平の戦いは歴史書や物語でも有名ですが、改めて簡単に振り返っておきましょう。平安時代の末期、朝廷の権力争いで起こった保元の乱（1156）を機に、それまで次第に力をつけてきていた平氏・源氏などの武家が政界に進出しました。続く平治の乱（1159）で平氏の棟梁平清盛に源氏の棟梁源義朝が破れ、義朝の三男であった源頼朝は伊豆への流刑の

身となります。

頼朝は20年に及ぶ配流生活の後、平氏打倒の機運をとらえ、治承4年（1180）8月に挙兵しますが、石橋山（現在の小田原市）の戦いで平家方に敗れ、真鶴から海路で安房国に逃れます。そして房総の豪族や武士を味方につけ、極めて短期間で上総国、下総国へと進軍し、武蔵国を経由して鎌倉入りを果たします。その後、富士川の戦い（同年10月）に勝利した後は、都落ちした平氏を西国に追い詰め、ついに壇ノ浦の戦い（1185）で滅亡させました。ここにおいて東国に、武士による政権が誕生することとなったのです。初期の鎌倉幕府はまさに、東国武士の、東国武士による、東国武士のための政権でありました。

■頼朝の房総半島北上ルート

さて、東国武士たちの希望となつて、源氏再興を図る頼朝の軍勢が房総半島を北上したルートの話に移りましょう。そのルートは、主として西上総を通るものであったと考えられていますが、陸路・海路ともに、すでに古代から存在していた道を利用したと考えるのが自然で



図1 『武家の棟梁 源氏はなぜ滅んだか』 野口美（一九九八）による

が自然です。『古事記』や『日本書紀』にみえるヤマトタケル東征の記事や、東京湾周辺に残るヤマトタケルとオトタチバナヒメの伝承など

が示すとおり、古代の西上総には、相模国から現在の東京湾を渡って上総国に至る古代東海道が通っていたからです。

古代の房総では、安房・上総・下総の各国府所在地を結ぶ道（駅路）と、各国内の郡衙（郡の役所）と郡衙の間、郡衙と国府の間を結ぶ道（伝路）がすでに整備されており、東国の軍事及び物資輸送の拠点としても重要な位置を占めていました。

袖ヶ浦およびその周辺、いわゆる西上総の地は、鎌倉街道とよばれる道がいくつも存在している不思議な所で、とても興味を惹かれる地域です。中でも袖ヶ浦市の下新田・三ツ作・川原井を経て市原市の立野に至るルートには「鎌倉街道」「鎌倉通り」といった地名に加え、源氏の守護神であった八幡神社が多く分布し、源頼朝伝説も多く残されています。このルートは、平成8（1996）年に文化庁が選定した歴史の道百選に「鎌倉街道—上総路—」として県内で唯一、選ばれています。

■鎌倉道がいつはい

西上総のあちこちに鎌倉街道があるのはどうしてなのでしょう。ここからは、鎌倉街道として伝承されている複数のルートを紹介し、その謎に迫りたいと思います。まず、鎌倉街道とはどのようなものなのかを確認しておきましょう。鎌倉街道とは、①鎌倉と各地を結び、軍事・物資輸送・通信等のために整備された道。

②東日本各地にその名をとどめ、街道には市や宿が設けられていた。③鎌倉幕府の歴史書『吾妻鏡』には「鎌倉往還」とある。また、同書には、広くて人通りの多い道は「大道」、人通りの少ない道は「閑路」と記されている。④鎌倉街道の呼称は、江戸時代に成った『新編武蔵国風土記稿』や『新編相模国風土記稿』にみられるもので、鎌倉時代からの呼称ではない。ということになるでしょう。

袖ヶ浦周辺の古代〜中世の道と推定できるものを、



写真1 発掘された中世古道(袖ヶ浦市山谷遺跡)

観音・高蔵寺
陀を経て高倉
↓木更津市望
ヶ浦市大曾根
原市椎津↓袖
ヶ浦市大曾根
ルット①は市
海道の駅路で
ありうと推定
してあります。
ルット②は市
原市椎津↓袖
ヶ浦市大曾根
ルット③は市
原市椎津↓袖
ヶ浦市大曾根
ルット④は市
原市椎津↓袖
ヶ浦市大曾根

源頼朝の軍勢が通過したのもこれら複数の道であったのだと思われませんが、『吾妻鏡』や『義経記』などをみても、頼朝の軍勢が西上総を通過していく様子は記されていませんし、經由地や時間に矛盾もあるのですが、短期間で駆け抜けたことは確かなのでしよう。そして上総広常



写図2 西上総の鎌倉街道地図 (asahi-net.or.jp)に加筆

に至るもので、ルット①との交差点に建つ道標の銘文「北ちばみち 南たかくら道」が示すとおり、坂東十三観音札所を結ぶ巡礼の道として利用されていた。このルットは、古代の望陀郡衙(望陀郡の役所)推定地に接するため、古代道路の可能性ががあります。ルット②は、市原市姉崎↓袖ヶ浦市上泉↓野里↓阿部を経て木更津市矢那方面に続くものです。上泉の愛宕神社脇に残る旧道は、斜面に向かって一直線に切り通すという古代の官道に共通する建設方法をとっています。このルットを古代東海道であると推定する研究者もいて、私も古代道路の可能性が高いと思っています。ルット③は、幹線ルット上の御所覽塚付近から南下して袖ヶ浦市高谷↓木更津市真理↓君津市小櫃方面に向かうもので、江戸時代には久留里中往還とよばれた道です。この道は幅も狭く直線的とは言えないのですが、川原井地先に源頼朝軍勢が万騎に達した事に因むと伝わる「馬ノ坂(マンザカ)」「万騎坂」があります。

ここまで紹介したルット以外にも幹線ルット④から分かれ、東京湾岸の物流拠点となった蔵波や久保田、椎津の各湊に続く枝道があり、鎌倉街道であると伝わるものがあります。それらの道は市境・大字境等となっていることが多く、古道の特徴をよく示しています。

古東海道が通る袖ヶ浦周辺地域は、古代以来、海上交通を含め交通の要衝であり続けました。その動脈としての道路は、安房上総⇄下総の房総三国を結ぶもので、大掴みには北東⇄南西方向に軸をとります。

や千葉常胤の加勢があったから、迅速に進軍できたのも間違いのないことなのでしょう。しかし、この地に残る地名や大切に受け継がれてきた頼朝伝説を知れば知るほどに、民衆が源氏の再興を支持したからこそであったのだらうと思ってしまう。

鎌倉幕府が成立した後の在地領主や武士たちは、湾岸地域と内陸部を結ぶ道の整備とあわせて古代から続く道も再整備し、「いざ！鎌倉」の事態に備えたのでしよう。そして江戸時代における街道の整備、巡礼などの旅ブームを経て、ノスタルジックな鎌倉街道への意識が、いつの時代においても道路建設や補修などの作業にあたった地元民衆によって受け継がれてきた。その証が―鎌倉街道がいっぱいの現象なのだろうと思

上総自然学校（里山再生活動）

浅間山と上総自然学校

「瓦谷山だより」でも度々ご紹介している、真光寺の向かいにある浅間山。山の中ほどには真光寺との深い関係を思わせる十二神将の祠が残り、ご神木と伝えられる巨木もあります。聖域ともいえるこの地を天然の要害として戦国時代には山城が築かれたりと、とても興味深く魅力的な場所なのですが、現在は竹や笹に覆われ、あちこちに倒木がころがり、とても人が立ち入れるような場所ではなくなつてしまいました。以前は自然学校のイベントでキノコの菌打ちをしたり、自然観察会や巨木巡りをしたりと、馴染みのある場所なのでなんとか整備してまた多くの方にこの場所の魅力を知ってもらいたいと常々考えておりました。

そんな折、城址についての調査が行なわれることになり、専門家が現地に残る地名や遺構を巡察した結果、浅間山を含む一帯は里見氏の構えた巨大な山城跡とみてほぼ間違いないとの見解が示され、袖ヶ浦市観光協会による「川原井里見城跡」の標柱と案内板の設置、さらには御城印（御朱印のお城版）の発行が決定しました。

これは良い機会です。浅間山一帯を整備し、多くの方に来ていただけるようになれば川原井地区の大きな魅力の一つとなり、また自然学校のフィールドとして再び活用することも出来ます。ここは本腰を入れて山の整備を始めようと、まずは地域の方々にご相談です。浅間山の麓には今では耕作放棄されてしまった田んぼや畑があり、山を綺麗にするにあたってそこを使わせてもらえないかとご相談したところ、快く承諾してくださり、「声かけてね、手伝うから」とありがたいお言葉までいただきました。

整備する範囲は広く、片付けなければならぬ竹や倒木の量は膨大ですが、不思議とやりたいという気持ちにさせてくれる魅力がこの山にはあるように感じます。浅間山がどのように変わっていくのかも引き続きご報告していきたいと思えます。

イベントだより



炊き立ての新米ご開帳～



サンマとマッシュマロを焼いています。



来年もたくさん参加してね！



みんな一所懸命に作業。



すばらしい刈り姿！



昔ながらの風景に心が落ち着きます。

稲刈り

お米づくり作業の花形といえば稲刈りですね。イベントでは「はざがけ」といって竹で組んだ支柱に竿を渡し、たものに刈り取った稲をかけて乾かすという昔ながらの作業を行います。鎌を使い自らの手で収穫をした稲たちが整然と並びながら里山の景色の一部となつていく様は、とても達成感のあるものです。

収穫祭

コロナウィルスの影響で二年ほど開催を見送っていた収穫祭。久しぶりに大勢の方が里山の田んぼに集い、無事収穫を終えられたお祝いのイベントを心ゆくまで楽しみました。今年のお米の収穫量は3tと豊作で、しかも美味しさと評判です。自然の中で新米とサンマに舌鼓を打ち、参加回数に応じた感謝米をお土産に贈呈させていただきました。

2023年自然学校イベントのご案内

皆様のご参加をお待ちしております！

- | | | | |
|-----------|--------------|-----------|---------------|
| ・2月19日（日） | 野鳥観察会 | ・5月14日（日） | 田植え |
| ・3月25日（土） | お花見トレッキング | ・5月27日（土） | 水路の生き物観察会 |
| ・4月15日（土） | 田んぼの畔塗りと稲苗作り | ・6月3日（土） | 田んぼの草取りとホタル観賞 |
| ・4月16日（日） | 田んぼの畔塗りと稲苗作り | ・6月10日（土） | 田んぼの草取りとホタル観賞 |
| ・5月13日（土） | 田植え | ・7月2日（日） | イトトンボの観察会 |

※各イベントの詳細は上総自然学校のHPをご覧ください。

上総自然学校フィールドの希少な生き物たち
第九回・シマゲンゴロウ

詩人 大島 健夫

一九七〇年代、自動車レースの最高峰・F1でロータスが速かった頃、そのマシンカラーは黒地に金色のストライプでした。これは、スポンサーであったJPS（ジョン・プレイヤー・スペシャル）というタバコのイメージカラーで、当時はレーシングカーが黒くペイントされること自体が少なかったこともあり、ファンに鮮烈な印象を残しました。特に一九七八年にシーズン六勝をマークし、チーム・ロータスに年間タイトルをもたらした「ロータス79」は、「ブラックビューティー」の異名をとり、現在に至るまで、F1史上最も美しいマシンのひとつにも挙げられ続けています。

……お寺が出す刊行物の生き物の連載で、何のためにのつけから自動車レースやらタバコやら、明らかに自然環境に悪いもの話をしているかというところ、上総自然学校フィールドに生息しているシマゲンゴロウが、色といい流線型の体といいこの往年のロータスのマシンによく似ているからです。



レーシングカーを彷彿とさせる形状と配色

シマゲンゴロウは、体長14mmに達する中型のゲンゴロウで、川原井の谷津田にいるゲンゴロウ類の中では最大のサイズを誇ります。水生植物の豊富な池や沼、水田、湿地などに棲み、水中で小動物を捕食したり、死骸を食べたりして暮らしています。上総自然学校フィールドではきわめて普通に見られるのですが、実はこの種は全国的にも希少種で、環境省のレッドリストでは「NT（準絶滅危惧）」として記載されており、北海道から九州に

至るまでの数多い地域で、レッドリストへの指定を受けています。千葉県でも北総地域では極めて少なくなっており、房総丘陵を中心に生き残っているという状態です。

かつて、ゲンゴロウ類というのは、今では想像もつかないほどに、日本中に豊富に生息していたようです。しかし、一九五〇年代以降、強力な農薬が用いられるようになると激減し、高度経済成長に伴う開発や農業の衰退、アメリカザリガニのような外来生物の影響などによって、とどめを刺されるように各地で消えてゆきました。シマゲンゴロウに近縁で、やはり黒字に金色のストライプが入った色彩を持っていたスジゲンゴロウは、ちょうどJPSカラーのロータスF1が活躍していた一九七〇年代を境に日本国内で絶滅し、戦前には東京都下の井の頭池にさえ生息していた、大型の、いわゆるゲンゴロウも、現在では環境省のレッドリストで「VU（絶滅危惧Ⅱ類）」、千葉県では一九八〇年代を最後に記録が途絶えてしまいました。いろいろな土地でお年寄りに話を伺うと、「ゲンゴロウなんて昔はいくらでもいた」とおっしゃる方が大勢います。それが今では、中型種のシマゲンゴロウでさえ、気軽に出会える虫ではなくなくなってしまいました。わずか数十年で、日本の里山の水辺生態系は全く形を変えてしまっているのです。



水の中で餌を探すシマゲンゴロウ

夏、上総自然学校フィールドの田んぼをのぞき込むと、シヤジクモやイトトリゲモの中をクルクルと泳ぎ回るシマゲンゴロウを観察することができます。シヤジクモもイトトリゲモも、やはりシマゲンゴロウと同じように、そう遠くない昔は普通種であり、現在では環境省のレッドリストに記載されている希少種です。川原井の谷

津田は、タイムカプセルのように、往時の光景を保存しています。私は職業柄、古典文学に触れる機会が多いのですが、例えば「万葉集」などを読むと、実に多種多様な生き物の歌が収録されています。奈良時代には普通種であったけれども、その後の二二〇〇年の間に希少となってしまった生き物の、なんと多いことでしょう。生き物が消えることは、人間の歴史文化の厚みを削いでしまうことでもあるのです。

チーム・ロータスのマシンは、一九八〇年代に入る頃には優位性を失い、徐々に勝てなくなっていました。チーム創設者のコーリン・チャップマンは一九八二年に死去し、長い低迷期を経てチームは破産、一九九四年に死したのには、かの天才アイルトン・セナでしたが、彼も奇しくも同じ一九九四年、サンマリノグランプリでの事故でこの世を去りました。私はシマゲンゴロウを目にし、絶滅したゲンゴロウ類や栄華を誇ったF1マシンに思いを馳せるとき、「諸行無常」という言葉が頭に浮かんで仕方がないのです。

シマゲンゴロウ
Hydaticus bowringii
コウチュウ目ゲンゴロウ科
環境省レッドリスト・NT（準絶滅危惧）
千葉県レッドリスト・D（一般保護生物）

大島健夫

詩人。一九七四年千葉県生まれ。詩の朗読の日本選手権・ポエトリースラムジャパン二〇一六優勝。パリで開催されたポエトリースラムW杯で準決勝進出。一方でネイチャーガイドとしても活動。千葉県野鳥の会会長、日本トンボ学会会員。環境省希少野生動物植物種保存推進員。近著「身近な生物のきもち」（メイツ出版）好評発売中。

行 事 予 定

“新年の御祈願、厄除けは真光寺で” 年頭祈禱法要のご案内（元日～3日）



初詣はぜひ真光寺に御来山ください。

三が日は薬師如来の御宝前に於て新年の厄除・安全祈願・所願成就の祈禱法要を厳修いたします。お申し込みの上御参列の方にはお名前と願意を記した木製の御祈禱札を作成し授与いたしますので、ご来山前に代表の方のお名前・人数・①～⑱までの願意をお電話などにてお知らせください。30分おきの合同法要には、事前にお申し込みのない方もご参加になれますが、御祈禱札の授与は任意とさせていただきます。また人数によりお待たせすることがございますので、予めご承知おきください。

受付時間 午前9時～午後4時まで30分刻み（元日～3日 ※3日は正午まで）
※30分ごとの合同祈禱です。

法要時間 約15分

御祈禱布施 3,000円～5,000円程度

願 意 木札に書き入れます、下記より2つまでお選びいただけます。

- ①家内安全 ②諸災消除 ③諸願成就 ④如意吉祥 ⑤交通安全
- ⑥商売繁盛 ⑦厄除守護 ⑧身体健全 ⑨当病平癒 ⑩良縁祈願
- ⑪安産祈願 ⑫合格祈願 ⑬身心堅固 ⑭学業増進 ⑮五穀豊穡
- ⑯千客万来 ⑰社運隆昌 ⑱風調雨順 ⑲疫病退散

その他、車の祈禱等ご希望に応じてご祈禱いたします。

前年の御守、お札等がある方はご持参下さい、お焚き上げいたします。
当山以外の御守・お札でもかまいません。

●御守り、おみくじの販売

例年の御守や、ペット御守ほか多数の御守をご用意しています。好評のおみくじガチャもありますので是非、一年の運勢を真光寺で占ってみて下さい。



行事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

修正会

《檀信徒》

日時：1月3日（火）14時より
檀信徒皆様の一年の安全、諸願成就を祈願し、ご祈祷法要を行います。

山門春彼岸法要

《檀信徒》

日時：3月21日（火祝）14時より
春の彼岸法要を行い、ご先祖さまのご回向を致します。

縁の会春彼岸法会

《縁の会会員》

日時：3月21日（火祝）11時より
縁の会合同での春彼岸法要を行います。
昼食（お弁当）のご用意をいたしますので、参列申込みの際にお弁当の要・不要をお伝え下さい。
欠席の場合でも御回向のみ、お塔婆のみのご供養もお受けいたしますのでお申し付け下さい。
※要予約

戒名を考える会

《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：3月16日（木）午前11時より午後2時半頃
費用：3,000円（昼食付）
定員：10名

戒名を考えることは、人生を振り返ることです。午前中は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精進料理を頂きます。午後は住職指導のもと、実際にご自分の戒名を考えます。考えた戒名は後日の授戒式にて正式に住職よりお授けし、位牌に刻銘の上、観音堂にご安置します。

※要予約

※持ち物：漢和辞典

七日法要

《縁の会会員》

日時：1月7日（土）11時より授戒式・月例供養、昼食（お餅つき）午後は年頭祈祷法要
2月7日（火）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
3月7日（火）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
4月7日（金）11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は花まつり法要と植樹祭
5月7日（日）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
6月7日（水）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏

※要予約

※午前、午後のみのお出席もできます。

ご詠歌練習日

《どなたでも参加できます》

ご詠歌はお釈迦様、お祖師様の教えや、亡き人を偲ぶ心を詞に表し、音楽に乗せてお唱えするものです。初めての方にも丁寧にご指導いたしますので、ぜひ1度ご参加ください。

2月 14日・28日	5月 9日・23日
3月 14日・28日	6月 13日・27日
4月 11日・25日	7月 11日・25日

時間：15時～16時半

精進料理と聖典講読の会

《どなたでも参加できます》

日時： 1月26日（木）
2月20日（月）
3月22日（水）

午前11時～午後2時30分

費用：3,000円 昼食付

住職による仏教解説の後、一緒に精進料理をいただき、午後は坐禅や写経をいたします。

※要予約



精進料理と聖典講読の会

行事予定

真光寺囲碁の会 初心者入門基礎講座 《どなたでも参加できます》

日時：4月3日（月）～4日（火）
14時から翌日13時30分解散
費用：8,000円 1泊3食

囲碁をはじめてみませんか？初心者の方も大歓迎！対局後は皆さん和気あいあいと囲碁談義に花を咲かせておられます。日帰りのご参加も可能ですのでお問い合わせください。

※要予約

坐禅会 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第2・第4土曜日
15時～16時30分

坐禅初心者の方もやさしくご指導いたしますので気軽にご参加ください。足が組めない方も椅子坐禅で無理がないように参加いただけます。休憩をはさんで2回坐禅を組みます。

仏像彫刻体験教室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第1・第3水曜日
13時30分～16時30分

費用：3,500円 / 1回参加

仏師の先生にご指導頂き仏像を彫っていきます。初めての方でも大丈夫です。常時10名ほどの参加者がそれぞれのレベルに合わせて取り組まれています。※要予約



坐禅会

送迎のご案内【午前】

- 電車の方
 - ・上り電車の方（君津発千葉行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
 - ・下り電車の方（快速君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着
- バスの方
- 【土日祝】
 - ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
 - ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
 - ・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時17分着
 - ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
 - ・東京発9時10分→袖ヶ浦BT10時00分着
- 【平日】
 - ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
 - ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
 - ・川崎発8時40分→袖ヶ浦BT9時37分着
 - ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
 - ・東京発9時10分→袖ヶ浦BT10時00分着

送迎のご案内【午後】

- 電車の方
 - ・上り電車の方（快速逗子行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時05分着
 - ・下り電車の方（千葉駅発木更津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着
- バスの方
- 【土日祝】
 - ・品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時52分着
 - ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
 - ・川崎発11時30分→袖ヶ浦BT12時32分着
 - ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
 - ・東京発11時40分→袖ヶ浦BT12時30分着
- 【平日】
 - ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
 - ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
 - ・川崎発11時15分→袖ヶ浦BT12時17分着
 - ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
 - ・東京発11時40分→袖ヶ浦BT12時30分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634
 TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630
 e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会) satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)